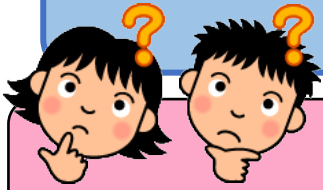


# 社会的事象の特色や相互の関連を考えることができる児童の育成

—自分と社会とをつなげる資料から考える活動を通して—



## 児童の実態

- ・社会的事象の特色や事象同士の相互の関連を考えることに意識が向けられていない。
- ・社会的事象と自分との関わりに気づけていない。



特別研修員 社会 有賀喜紀(小学校教諭)

## 教師の願い

- ・社会的事象の特色や相互の関連を考える力を高めたい。
- ・児童に社会の一員としての自覚を持たせたい。

単元名 ごみのしよりと利用

学習課題「10年後の町でも、今と同じような暮らしをしていくにはどうしたらいいだろう」

## 手立て1 自分と社会とをつなげる資料を提示し、児童の驚きや疑問を引き出す

### 自分と社会とをつなげる資料

有料指定ごみ袋の有無と価格差

一人一日当たりのごみの排出量

保護者アンケートの結果

驚きや疑問で社会的事象に目を向けさせる

- ・えっ! ごみ袋の値段が違う!
- ・えっ! 本当? 私たちの町のごみの排出量は少ないの!
- ・どうして? ごみ袋の値段が高いから、ごみの排出量が少ないのかな?

### 予想

- ・ごみ袋の値段が高いから、ごみを減らす努力をしているのだと思う。
- ・家では、ごみ袋にぎゅうぎゅうにごみを詰めて出しているから、ごみの量が少ないのかな。
- ・分別してリサイクルに協力しているからだ。

### 調べて分かったこと(事実)

- ・家庭では、ごみを減らすために色々な努力や工夫しているんだ。
- ・シャンプーの詰め替えをしたり、エコバックを使うのは、ごみを減らすための工夫だったんだ。

## 手立て2 自分と社会との関わり方を見直し、社会の一員として、持続可能な社会へ向けて自分ができる協力を考える

### 自分と社会との関わり方を見直す

保護者アンケートをもとに、ごみを減らす工夫や努力を誰がしているかを見直す。

- ・お母さんは買い物の工夫をしている。
- ・私もおさがりの服を着ているよ。
- ・シャンプーの詰め替えは、私の仕事だよ。
- ・ほとんど、お母さんがしていることだ。

### モデルとなるような地域の取組を知り比較する

有料指定ごみ袋の価格が低いのに、ごみの排出量が少ない町と、自分の町との違いを比べる。

- ・私たちの町より、リサイクル率が高いんだ。
- ・町のみんなが、ごみを分別したり、リサイクルしたりするとごみは減らせるんだ。
- ・ごみを減らす工夫をする習慣がついているんだ。

### 社会の一員としての自分

お母さんやお父さんだけでなく、地域の人や私たちもごみを分別して、リサイクルに協力したり、繰り返し使えるものを使うようにすることが大切なんだ。

社会的事象の特色や相互の関連を考え、学習課題に対する自分の考えを整理する

### 成果

- 自分と社会とをつなげる資料として、有料指定ごみ袋の有無や価格差を考える資料を提示したことで、社会的事象を自分の事として捉え、驚きや疑問が生まれ、社会的事象の特色や相互の関連を考えることができた。
- 社会的事象と自分との関わり方について、モデルになるような地域との違いを考えたことは、社会の一員として、より良い社会に向けて自分ができることを考えることにつながった。

### 課題

- 複数の事象の中で、何と何が関連しているのか、一人では十分につかめない様子が見られた。個人で考える際に、わかりやすく観点を絞り伝えることが必要である。